

〔令和7年10月22日改定〕

1. 筆頭著者は日本口蓋裂学会会員に限る。共著者に非会員を含む場合は、1名につき5000円の掲載料を負担すること。ただし、編集委員会が認めた場合はその限りではない。また、共著者の人数は15名までとする。15名を超える場合は投稿時に理由を申告し、編集委員会の承認を得ること。
2. 原稿は他誌に発表していないものに限る。ただし、要件を満たしたものについては、二次出版を認める（詳細は「二次出版論文について」を参照すること）。
3. 論文の採否、論文の種類および掲載順は編集委員会で決定する。委員会は必要に応じて、著者に修正を求めることがある。
4. 論文の種類は以下の通りとする。

総説：特定のテーマについて国内外の知見を多面的に集め、体系立ててまとめて概説・考察した論文

原著：独創性に富み、明確な新しい知見がある論文

統計：施設の症例データなどを集計し、経年的な動向などを分析した論文

臨床：原著ほどの新規性はないが、臨床的に価値のある論文

症例：新たな知見を提供する単一あるいは複数の症例を報告した論文

短報：新規性の高い独創的な考案や手法の論文

Letter to the Editor：本誌に掲載された論文に対する疑問・質問・提案など

二次出版：外国雑誌に掲載された学術論文を学会員に普及することを目的とした和文論文

5. 論文は次の様式に従うこととする

- 1) 本文はMicrosoft Wordで作成し、A4横書きで、フォントサイズは10.5ポイントとする。1ページの文字数・行数は35字×30行とする。また、本文（論文名、著者情報、要旨、キーワード、文献、図表は除く）の文字数・図表の点数は原則として以下の通りとする。

総説・原著・統計・臨床・症例：12000字以内（図表の点数は制限しない）

短報：3200字以内（図表は合わせて3点以内）

Letter to the Editor：1000字以内（図表は掲載不可）

- 2) 図表はMicrosoft Word, PowerPoint, Excelなどのソフトウェアで作成すること。
- 3) 常用漢字、現代仮名遣いを用いること。外国語は片仮名または原語（人名・固有名詞を除き小文字で表記する。ただし、文頭の英語は大文字で始める）で書く。年代表記は、原則として西暦を使用する。
- 4) 論文は表紙・和文要旨・英文要旨・本文（緒言・研究対象と方法・結果・考察・結語）・文献・表・図の順に整え、表紙を1ページとして通しのページ番号を中央下に入れる。また、行数の通し番号を入れる。本文の末尾には謝辞・利益相反の有無・著者連絡先を記載する。

- 5) 表紙には、論文の種類・論文名・著者名・所属機関名・主任名または指導者名（※所属が個人医院の場合は記載不要）・図表の数を明記する。論文名・著者名・所属機関名は英文も記載する。英文の記載方法は以下の通りとする。

論文名：本タイトルは各単語の頭文字を大文字に（前置詞・冠詞・接続詞は除く）、サブタイトルは最初の単語のみ頭文字を大文字にする。

著者名：姓は全て大文字、名は最初の字のみ大文字にする。

所属機関名：各単語の頭文字を大文字にする（前置詞・冠詞・接続詞は除く）。

- 6) 要旨は和文（800字以内）、英文（400語以内）とする。ただし短報は和文要旨400字以内、英文要旨200語以内とする。和文キーワード（5語以内）を和文要旨の最後に、英文 keyword（5語以内）を英文要旨の最後に記載すること。
- 7) 和文と英文は内容を一致させること。また、英文は投稿前に必ず native check を受けること。
- 8) 図表には説明（和文論文は和文、英文論文は英文）を記載し、挿入箇所を本文余白に朱書する。印刷に不適当な図は書き換えることがある。この場合の費用は著者負担とすることもある。
- 9) 文献は次の形式に従い、引用順に列記する。本文中の引用箇所には肩番号をつける。

(例) 1,2) 3-5)

著者が複数の場合は、3名までは氏名を記載し、それ以上は「他」、英文の場合は「et al.」と記すこと。雑誌の略名は、日本のものは現物の表記または医学中央雑誌、外国のものは Index Medicus に従う。巻、ページのない論文は DOI を記載する。講演抄録は、題名の末尾に和文（抄）、英文（abst.）と記載する。

i. 雑誌の場合

著者名：題名、雑誌名、巻：引用ページ（最初のページー最後のページ）、発行年（西暦）。

著者名：論文名、雑誌名、発行年（西暦）、doi: DOI

(例) 加藤正子, 岡崎恵子, 鈴木規子, 他: 側音化構音の5症例. 音声言語医, 22: 293-303, 1981.

(例) 山田一郎: 口蓋裂について. 日口蓋誌, 2022. doi: <https://doi.org/10.5794/jjxxx.71.21>

(例) Nishio, J., Yamanishi, T., Kohara, H., et al.: Early two-stage palatoplasty using modified Furlow's veloplasty. Cleft Palate Craniofac J., 47: 73-81, 2010.

(例) 大石正道: 口蓋裂患者の顎裂部の処理, (抄). 日口蓋誌, 20: 253-254, 1995.

ii. 単行本の場合

[単著] 著者名：書名、引用ページ、発行所、発行地、発行年（西暦）。

(例) 鬼塚卓弥: 唇裂（兔唇）. 121-123, 金原書店, 東京, 1972.

[編集者がいる場合]

【和】著者名：題名、編集者名、編集；書名、引用ページ、発行所、発行地、発行年（西暦）。

【英】著者名：題名。In 編集者名 ed.; 書名、引用ページ、発行所、発行地、発行年（西暦）。

(例) 宮崎 正：口蓋裂の治療体系. 宮崎 正 編集；口蓋裂—その基礎と臨床. 521-529, 医歯薬出版, 東京, 1982.

(例) Eastoe, J.E.: The organic matrix of bone. In Bourne, G.H. ed.; The biochemistry and Physiology of Bone. 81-105, Academic Press, New York, 1956.

iii. ウェブサイトの場合

ウェブサイト名：記事名. [サイト URL], 閲覧年月日.

(例) 日本口蓋裂学会：沿革・歴史. [<https://square.umin.ac.jp/JCLP/about/history.html>], 2024/1/30.

6. 掲載料は刷り上り 8 ページ以内は無料, 超過ページについては著者負担とする (1 ページにつき 1 万円)。また図のカラー掲載は著者負担とする。カラー掲載を希望する場合は図にその旨を明記すること。

7. 別刷は有料とする。

8. 校正は初校のみとする。著者校正に際し, 大幅な追加・削除・図表内容の変更は認めない。

9. 論文投稿は, 投稿申込書および論文データ (本文・図表は分ける) をメール添付で下記事務局に送る (メールの件名は「口蓋裂学会誌：論文投稿」とする)。投稿時期については学会誌奥付の「雑誌発行」を確認すること。なお, 査読結果は全著者に連絡する。

日本口蓋裂学会 編集事務局

〒169-0072 東京都新宿区大久保 2-4-12 新宿ラムダックスビル 9 階 (株) 春恒社内

E-mail : jcpa-edit@shunkosha.com

10. 掲載証明書の発行を希望する場合は, 上記事務局まで連絡すること。

11. 本誌に掲載された論文の著作権 (著作財産権, copyright) は, 本学会に帰属する。

12. この投稿規定は編集委員会において変更することがある。

=====

編集委員会からのお願い

1. 正誤表の掲載について

掲載論文に誤りがある場合は正誤表を掲載いたしますので, 可及的速やかに事務局までメールでご連絡下さい。

2. 投稿規定

必ず最新号のものをご参照願います。

3. 論文の雛形 (Word) を学会ホームページの「学会誌情報」のページに掲載しています。論文作成の際は雛形をダウンロードしてご利用下さい。

(<https://square.umin.ac.jp/JCLP/journal/>)